

Press Release

◆ 内容についてのお問い合わせ

独立行政法人 国際協力機構(JICA) 報道課 担当 和田

TEL: 03-5226-9780 FAX:03-5226-6396 E-mail:Wada.Yoshikazu@jica.go.jp

平成 26 年 1 月 23 日

**ウズベキスタンの電力事業者向けに日本の電力技術やマネジメントを紹介
～日本の電力技術に関心を向けるウズベキスタンの経済省や電力公社向けに研修を実施～**

国際協力機構(JICA)は、1月5日から2月12日まで、ウズベキスタンの電力公社ウズベクエネルギーの火力発電所に勤務する技術者を対象として、広島県等で「ガスタービン維持管理研修」を実施しています。また、2014年2月3日から2月14日まで、ウズベキスタンの経済省及びウズベクエネルギーを対象に「電力会社マネジメント研修」を北海道及び関東で実施予定です。なぜウズベキスタンが日本の電力技術に関心を持っているのかなど、研修参加者からの声を聴くことが可能です。是非取材をご検討下さい。

[背景]

ウズベキスタンの電力供給の約 9 割は全国 10 ヶ所の火力発電所によって賅われていますが、その多くは 40～50 年前に運転を開始した設備で、老朽化によって発電能力が著しく低下しています。また、これらの設備はエネルギー効率が低く、燃料消費量や二酸化炭素排出量の増大要因¹となっています。

そのため、ウズベキスタンはJICA等のドナーや自国内の復興開発基金の支援を受けつつ、発電所(コンバインドサイクル発電、太陽光発電等)や送電線の新設・増設・近代化や次世代電力量計の普及等に取り組んでいます。

特に、電力構成の大宗を占める火力発電については、新規設備に更新することで、熱効率の向上、天然ガス消費量削減、CO2排出抑制を目指しています。この新規設備には、日本企業が国際的にも強い競争力を持つコンバインドサイクル発電の採用が検討されています。

こうした流れを踏まえ、現在、JICAは、円借款「タリマルジャン火力発電所増設事業(2010年5月L/A調印)」、「ナボイ火力発電所近代化事業(2013年8月L/A調印)」を実施し、コンバインドサイクル発電プラントの導入を支援しています。これら支援の一環として現在以下の研修事業を日本国内で実施しています。

[ガスタービン維持管理研修]

概要:ウズベキスタンにとって新しい技術であるコンバインドサイクル発電の運転・維持管理能力を高めることを目的に、ウズベクエネルギー(電力事業会社)の技術系の職員を対象として実施する研修です。

- 対象:発電所の指導的・管理的立場にある技術者12名
- 期間:2014年1月5日～2月12日
- 研修実施機関: JICA中国国際センターとの委託契約に基づき海外電力調査会及び

¹ 世界銀行が作成した2010年の世界開発報告書によるとウズベキスタンのGDP1ドル当たりの二酸化炭素排出量は同報告書に記載された65ヶ国のうち最も大きい数値(2.1kg)となっています。

Press Release

◆ 内容についてのお問い合わせ

独立行政法人 国際協力機構(JICA) 報道課 担当 和田

TEL: 03-5226-9780 FAX:03-5226-6396 E-mail:Wada.Yoshikazu@jica.go.jp

株式会社パワーエンジニアリング・アンド・トレーニングサービス(PET)によって実施。

- 主な視察・見学等:中国電力本社(1月24日)や三菱重工高砂製作所(2月7日)を訪問予定
- 取材申し込み窓口:
取材可能な日程・場所についてはJICA中国国際センター研修業務課・奥田^{おくだ}(082-421-6310)までお問い合わせください。

[電力会社マネジメント研修]

概要:投資事業の根幹となる電力統計情報、電源開発計画、事業投資計画等に係るウズベクエネルギーの計画策定能力を強化し、経営や事業の計画性・確実性を高めること、また、ウズベキスタン側が関心を有する日本の最新の電力事業や技術を紹介する。

- 対象:ウズベキスタン経済省、ウズベクエネルギー及びその傘下企業、発電所等の管理職層を10名
- 期間:2014年2月3日~2月14日
- 研修実施機関:JICA北海道国際センターとの委託契約に基づき北電総合設計株式会社によって実施。
主な視察・見学等:北海道庁(2月6日)、北海道電力(2月5~12日)等を訪問予定(2月3日は都内又は横浜にて研修予定)。
- 取材申し込み窓口:
取材可能な日時・場所についてはJICA北海道国際センター研修業務課・東谷^{とうたに}(011-866-8393)までお問い合わせください。

以上